

## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組1】…モザイクアートの作成（A中学校）

1年生では、友達に感謝したいこと、ありがとうと伝えたい内容を、小さなメモに記入し、色ごとに指定された大きな模造紙に貼って作成した。そして、「大きなありがとうの気持ち」を掲示して、学年全体で大きな1枚のモザイクアートを完成させた。

生徒は感謝したい気持ちになったら、指定の場所からメモ用紙を持っていき、感謝したいこと、自分の名前、感謝したい相手等の必要事項を記入し、模造紙に糊付けしていく。生徒も楽しみながら行い、お互いを認め合うことで年間を通じて、温かい雰囲気醸し出すことができた。



【作成したモザイクアート】

#### 【取組2】…「今日のヒーロー」選定（A中学校）

1年生の終業の学級活動において、日直はその日に一番頑張った人を「今日のヒーロー」として選出し、発表する時間を設定した。クラスのため、誰かのために頑張ってくれた人を「今日のヒーロー」とした取組を1年間継続することで、生徒の自己肯定感が高まる傾向が見られた。選出基準は、黒板を消すのを手伝ってくれた人や、配布物を一緒に配ってくれた人、消しゴムを貸してくれた人等、その日の日直によって異なるが、多様な価値観に触れることができた。「今日のヒーロー」を選出する側は、友達のよい所を見付ける視点が育ち、選出された側は、自分の行いが肯定され嬉しい気持ちになることで、すすんで優しい行動を率先する姿が見られた。

#### 【取組3】（B中学校）

英語の授業では、生徒一人一人が授業内で発言できるように発表を行っている。また、生徒全員で取り組むアクティビティ（歌やグループ活動等）があり、英語が苦手意識のある生徒も積極的に活動に取り組むことができるように工夫しており、生徒全員が発言し、授業に参加する展開を意識した。生徒と教員の信頼関係を構築する上で、全員参加型の授業展開が効果的であると実感している。生徒を誰一人取り残さないようにする取組である。

#### 【取組4】（C中学校）

学校生活における生徒の意識調査アンケートを活用した校内研修を行った。アンケート調査では、独自のアンケート調査として、「生徒が学校で取り組みたい活動」を調査した。結果として、全校生徒で行う活動のお楽しみイベントや学習発表会等のアイデアや、一人1台端末を活用した学習や生徒会活動等の意見が集まり、生徒から教員へ意見を伝えることで魅力ある学校づくりへとつなげた。

## 多様な学びの場を確保する取組

(「早期支援」及び「長期化への対応」の取組)の推進

### 支援会議 (D中学校)

校内支援会議を毎週行い、生徒の情報共有を図るとともに、校内別室の運営についても意見を出し合える場になっている。また、短時間で行う打合せも設定し、生徒の状況に応じて、教職員が連携して多面的に検討することができ、生徒の支援の充実を図る会議になっている。

### アウトリーチによる支援 (E中学校)

毎月1～2回程度、不登校生徒の家庭を訪問し、プリント等を渡す時間を設定している。そこでは不登校対応教員と養護教諭と一緒に訪問し、保護者とコミュニケーションを図っている。コミュニケーションを重ねたことで、毎週定期的に家庭訪問できるようになり、担任と情報共有を図ることができる。

### 校内別室における支援等 (A中学校)

校内別室において、「特別の教科道德」での手法を活用したグループ活動を行っている。異学年同士で学習する場合もあるが、発達段階に応じて道德の教科書を活用しながら、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きることを目指して支援している。校内別室を利用している生徒は、こうした活動の中で自分を見つめ直したり、考えや気持ちを伝え合ったりすることで、他者の心情の理解や意欲の向上が見られた。

また、生徒が校内別室を使用中の場合は使用している座席にマグネットが置かれる。マグネットには動物の写真を使用しており、環境整備に努めている。

### デジタル機器を活用した支援 (A中学校)

校内別室において、在籍学級の授業をオンラインで視聴できるようにし、生徒自身のペースで学習している。またグループ活動を行う際、班の生徒とつながり、校内別室内で協働的な学習が実施できている。



### 関係機関との連携 (B中学校)

巡回校では不登校に係る支援会議(月に1回)に加えて、SSW・不登校対応巡回教員・教育相談担当教員(+学年主任)と情報交換を毎週している。全学年の生徒に関する情報はもちろんのこと、個々の支援の在り方についての議論や、今後を見据えた支援の在り方について違う立場からの視点で話し合いをしている。

## 成果

校内別室内の支援が充実したこともあり、月ごとに継続して登校できる生徒が増加した。不登校生徒について居場所づくりや多様な学び場の提供が重要であると共通理解を図ることができた。

## 課題

今年度新たに始まった取組のため、すぐには成果が出にくいこともある。次年度も引き続き支援や活動を継続しながら、成果の数値化を図ることを目指す。